午後の談話室 第22回

「考え抜くこと」の魅力

法学部　法律学科
網谷 壮介 専任講師
AMITANI Sosuke

京都大学経済学部卒業。東京大学大学院総合文化研究科 修士課程修了、博士後期課程を単位取得退学。神奈川工科大学 非常勤講師、立教大学法学部政治学科 助教などを経て、2019年度より現職。博士（学術）。

尊敬する人物：ミシェル・フーコー

好きな映画：
『グッド・ウィル・ハンティング』
幼少期に負った心の傷に苛まれ自らの才能を発揮できずにいる青年と、はじめはそのカウンセラーとして出会った精神科医。各々の困難を抱えた二人が、互いの存在と関わりによって、それを乗り越えていく。

視点の発見

学生時代、経済学部に所属しながら他学部の科目も幅広く履修し、さまざまな分野に触れた網谷先生。そのなかで特に興味を惹かれたのが「哲学」だった。ハーバーマスやアーレントなど20世紀の哲学者による思索に触れるうち、その根底にあるカントの哲学と巡り合った。

「大学を卒業後、大学院に進んだのは『自分で何かを考え、その成果を世に問いたい』という思いがあったからです。そして研究のテーマに据えたのがカントでした。

彼の思想は多くの分野に及んでいて、歴史や政治といったテーマでも本を書いています。いわゆる哲学の研究対象にはなりにくいものでしたが、取り組むうちに『こういう読み方・捉え方をしたら面白いのではないか』という視点が見えてきたのです」

それまでは注目されなかったものを捉え直す「視点」の発見が、網谷先生の研究者としての道につながっていった。そして昨年、単著『カントの政治哲学入門』を上梓した。

「カントの本をそのまま読んでも面白さは、なかなか伝わりません。そこで、その思想やメッセージを読み解くペースメーカーになるような一冊にしたいと書いたものです。

政治思想史を学ぶ際、過去の思想家のテクストを実際に自分で読んでみることが一番大事です。政治思想史の授業では、思想家の歴史的背景や文脈をお伝えして、テクストを実際に読む助けにしてもらいたいと思っています」

自分を変える経験を

自由、平和、戦争、あるいは正義――カントは、今日においても繰り返し問われる言葉と理念について考え続けた。

「たとえば『自由』についてのカントの考察は、現代の民主主義の根幹にもなっていると思います。カントの自由は、自分が同意したルール・法以外のものには従わないという、自律の考え方です。カントは人間の自由とは何なのか、徹底的に考え抜いた哲学者でした」

いま、獨大生がカントを読むことの意義とはどんなことだろうか。

「ひとつ挙げるなら『考え抜く』ことです。カントの思索に触れ、考えていくと、その過程でしんどさやつらさを感じることがあります。それでも考えて、考え抜いた時に、目の前が開ける瞬間があります。その見晴らしの良さを体験してもらいたいと思います。

本を読み、その思索の過程を追体験して結論にたどり着くという経験は、『考える』ことについての価値観を大きく変化させてくれるでしょう。

カントでなくても、本にはそういう力があります。大学生のうちに、古典と呼ばれるようなどっしりとした本にも挑戦し、自分を変える出会いを積極的に探してほしいと思います」

『カントの政治哲学入門：
政治における理念とは何か』（白澤社,2018）

My Favorite Words

「知性の悲観主義、意志の楽観主義」。網谷先生が紹介してくれたこの言葉は、20世紀はじめのイタリアの思想家、アントニオ・グラムシが著作の中で示したものだとか。「知性を駆使して考えれば、現実の社会には多くの問題があり、理想とするあり方（理念）からは遠く離れていることが分かります。しかしそうした悲観的な視点に立ちながらも、楽観的な意志を持って、社会を変化させるために行動する……そのバランスは、私たちの日常や人生にも求められるものだと思うのです。自分が置かれた状況を絶望か楽観かの二極で見るのではなく、現状を分析する冷静な知性と、現状を変える・なりたい姿を目指す前向きな意志の両方を持つことの大切さを教えてくれるようでもあって、好きな言葉です」